

平成29年度 社会福祉振興助成事業 募集要領（モデル事業）（案）

本事業の公募は、本来平成29年度予算が成立した後に行うべきものですが、できるだけ早期に事業を実施するために、予算成立前に行うことといたしました。そのため、予算の成立状況によっては、内容に変更が生じることがある点に留意してください。

1. 助成の目的

WAM助成では、地域における子どもの居場所づくりを通じて、子育て支援の課題に対し柔軟に取り組む活動に支援してきました。こうした居場所は、対象者を限定せず幅広く受け入れ、地域資源を活かし柔軟にきめ細やかな対応を行うことで、地域の子育て・子育て環境の向上に寄与しています。

本事業では、これらの取り組みを全国に広く普及させるため同様の取り組みを行う活動を募集します。

2. 助成対象事業・・・テーマ「居場所」運営を通じた子育て・子育て環境向上事業

（1）モデル事業の計画

●必須メニュー・・・助成期間中必ず実施

子育て中の家庭を対象とした地域の「居場所」運営

地域の実情や課題等に応じた、民間ならではの柔軟で温かみのある場作りとするため、必須メニューである「居場所」運営については、次の全ての要件を満たす事業であることが応募条件となります。

○「居場所」は子育て家庭などの対象者が気軽に集える場とし、月4回以上、定期的に開催すること

○制度による子育て支援拠点事業等では利用が難しい対象者の受け入れや、年齢や障害などの区分を越えた分野横断的な対象者や活動の担い手等の参加・活躍が可能な「居場所」とすること

（例：障害のある子どもや生活困窮世帯の子ども、外国籍の子ども等の積極的な受け入れ、過疎地における高齢者のボランティア参加、近隣大学の学生ボランティアの参加など）

○「居場所」開催時は、対象者の課題や状況に応じて気軽に相談が可能な運営体制とすること

○「居場所」の拠点機能を活かし、助成期間中に次の活動も数回、必ず実施すること

<子育て支援に資する講座・サロン等の開催>・・・「居場所」に親しみを感じ、継続的に集う基盤作り
（例：子育て講座、父親向け育児講座、ベビーマッサージ教室、農作業や園芸を通じた交流会、手仕事サロン、高齢者や先輩ママたちによる悩み相談会など）

○事業の確実な運営のため、連携団体等と進捗状況の確認等を行う連絡会を開催すること

●選択メニュー・・・居場所の効果を高めるために、必要に応じて次の中から選択

① 地域の子育ての課題に対応したサービス提供

「居場所」運営と併せて実施することで、地域の子育てに関する課題の解決につながる活動を行うこと
・・・（例：訪問支援、子育て情報の配信サービスなど）

② 人材確保・育成支援

「居場所」運営の担い手となる人材の確保・育成にかかる取り組みを行うこと
・・・（例：研修会、ボランティア等の育成など）

③ 普及・啓発活動

「居場所」の周知や、賛同者・協力者を増やすための普及・啓発を行うこと
・・・（例：イベントやシンポジウムの開催、リーフレットやハンドブック作成など）

(2) その他

- ・本事業は、基本方針に基づき、WAM助成のモデル事業として積極的に採択を行います。
- ・他の地域で事業実施する団体との情報交換会の開催等、助成期間中の運営支援等を積極的に行っていく予定です。
- ・本事業の応募に当たっては、必ずしも自己資金の投入は必要としません。
- ・なお、上記以外の事項については、「平成29年度社会福祉振興助成事業募集要領(案)」に準ずることとします。なおその際、3(1)の地域連携支援事業及び別紙1助成テーマ(9)として取り扱うこととします。

3. 提出期限

平成29年2月3日(金)まで(必着)

※締切り後の受付は一切いたしませんのでご注意ください。

平成29年度WAM助成モデル事業とは・・・

WAM助成の優良事業の中から、全国に普及させたい取り組みをモデル事業として選び、同様の活動を行う団体を募集することで全国各地に普及させるものです。



特徴

1

予め実施メニューが示されています！

特徴

2

WAMが情報交換やPRなどを支援！

特徴

3

自己資金の投入が不要！

平成29年度モデル事業 — 「居場所」運営を通じた子育て・子育て環境向上事業

必須メニュー

「居場所」運営

子育て中の家庭を対象とした地域の「居場所」運営

地域の実情や課題等に応じた、民間ならではの柔軟で温かみのある場作りとするため、「居場所」運営では、これら全ての要件を満たす事業であること

子育て家庭等が気軽に集える「居場所」の開催
(月4回以上)



制度によるひろば事業等
で対応困難であったり、
分野横断的な対象者や
担い手の受入れ

「居場所」の拠点機能を
活かした子育て支援の
講座・サロン等の開催

「居場所」開催時の
相談支援

確実な事業運営
のための連絡会

選択メニュー

一緒に行うとさらに効果がある取り組み

○地域の子育ての課題に対応したサービス提供

訪問支援、子育て情報の配信サービス など

○人材確保・育成支援

研修会、ボランティア等の育成 など

○普及・啓発活動

イベントやシンポジウムの開催
リーフレットやハンドブック作成 など

子育て中の孤立防止

地域の全体の子育て支援力の向上

児童虐待の防止

新たなサービスの創出

継続的な居場所運営

地域の子育てのプラットフォームとして定着し、子育て・子育て環境の向上に寄与

—「居場所」を軸とした事業による優れた活動事例—

1. 居場所を通して地域みんなの孤立を解消！

課題の背景

- ・日頃の活動を通して、若い母親が孤独に子育てを行っている「気になる家庭」を把握しはじめていた。
- ・一方で、高齢者の孤立も深刻化していた。

事業の概要

- ・自治体の乳児訪問と協力し、**訪問支援**を行う中で、居場所への参加につなげた。
- ・誰もが集える居場所とし、**手仕事サロン**などを開催しながら、子育てのベテランである**高齢者が若い母親の悩みを聞いた。**
- ・居場所で定期的に仲間作りのサロンを開催し、母親同士が悩みを日常的に共有出来る場に。

効果

- ・子どもを連れて安心して出掛け、孤立解消や仲間作りのできる場が創出された。
- ・高齢化が進む過疎地において、高齢者の孤立解消、新たな役割や生きがい作りにもつながった。

2. 子育て情報配信を支援のきっかけに！

課題の背景

- ・孤独な子育てを察知しても、若い母親は地域の集まりなどに出ていくことに慣れておらず、相談に結びつけることがまず最初のハードルとなっていた。

事業の概要

- ・親と子が気軽に集える居場所作りとともに、**一時預かりサービス**も実施。
- ・若い母親がよく利用する携帯を活用して、**子育て情報配信サービス**を実施。
- ・居場所に来るようになった母親が、参加する中で次第に情報サービスや相談の担い手に。

効果

- ・買い物や美容院の時など、制度ではなかなか対応できないちょっとした一時預かりで、リフレッシュの機会を創出。
- ・若い母親が親しみやすい携帯を活用し、支援のきっかけに。
- ・活動に参加する中で、単なる受け手から担い手へ。

3. サロン開催で父親の育児参加や仲間作り！

課題の背景

- ・核家族化が進む中、男性の育児参加のきっかけがなく、母親一人に負担が集中。
- ・多胎児や低体重児の親子は、さらに孤立する傾向。

事業の概要

- ・地域の子育て家庭を対象に、休日に**父親向けの育児講座**を開催。
- ・通常の居場所活動に加え、**育児講座、多胎児や低体重児に特化した相談サロン**を定期開催。

効果

- ・地域の男性の育児参加の促進だけでなく、虐待が疑われる家庭を、さりげなく支援に結びつけるよいきっかけにも。
- ・支援の足りない当事者の仲間作りや課題共有の場を創出。